

美術科が描く、体育祭の団旗

今年 6 月に開催された体育祭では、本校美術科の生徒たちが各団の団旗を制作しました。制作期間は約 1 か月。各団で話し合いを重ね、コンセプトづくりから始まり、約 2 メートルの大きな布に思いを込めて描き上げました。団旗は毎年、それぞれ異なる個性が光ります。構図や配色、筆致やタッチなど、さまざまな表現技法が工夫されており、生徒一人ひとりの創造力やチームワークが感じられる作品となっています。

完成した団旗は事前に教職員による審査・投票が行われ、最優秀作品が決定されました。体育祭当日には、副校長より、各団旗の構図や色彩、表現技法、コンセプトなどについて、美術的な視点から講評が行われました。競技だけでなく、美術作品として団旗を鑑賞する時間が設けられていることも、本校ならではの特色です。

ここでは、今年完成した団旗と、それぞれのコンセプトをご紹介します。

【黄団】



コンセプト：絶対王者

圧倒的な強さを誇る「絶対王者」を、戦いの神様として知られる阿修羅の姿に重ねて表現しました。三つの顔と六本の腕を持つ阿修羅には、どんな相手にも立ち向かう強さと揺るぎない闘志を込めています。力強い眼差しと迫力ある構図で、見る人を圧倒する存在感を表現しました。この団旗を掲げ、最後まで勝利への意志を貫き、絶対王者を目指します。

【青団】



コンセプト:アオハル

「アオハル」を「青ハブ」とかけ、一匹の大蛇として表現しました。

脱皮を繰り返して成長する蛇に、壁を乗り越えながら成長する私たちの姿を重ねています。

「青春の喜び」という花言葉を持つクロッカスや、パール・ラメの輝きで、日常の中にある小さな幸せを表現しました。

遠くからは見えない輝きも、近くで見ると確かに光っている——そんな青春への思いを団旗に込めています。

この勝負という殻を破り、青団一丸となって優勝を目指します。

【赤団】



コンセプト:不死鳥と太陽

私たちはこのテーマを、ただの不死鳥と太陽ではなく、「何度も蘇り、困難を恐れず挑戦し続ける姿」として表現しました。団旗制作では、何度も描き直しを繰り返し、思うようにいかないこともありましたが、最後まで諦めず挑戦し続けたことで、自分たちが納得できる作品を完成させることができました。

この団旗には、どんな困難にも仲間とともに立ち向かい、最後まで全力で挑戦したいという思いを込めています。

体育祭で生徒たちが思いを込めて制作した3つの団旗は、現在も校内の職員室前の廊下に展示されています。

それぞれの団旗に込められた個性豊かなコンセプトと、生徒たちの挑戦や熱い思いを、ぜひ間近でご覧ください。